

連携医院のご紹介

今回は、「言葉だけでなく、必ず体に触れて診察すること」を心がけておられる真田病院の副院長 真田 博明 先生です。



さなだ 真田病院

〒734-0007
広島市南区皆実町3丁目13-21
電話/082-253-1291
院長/真田 光明
診療科/産婦・外科(整)・外・内・リハ・麻

○貴院の歴史・理念をお教えてください

一番最初は、前身の真田医院が、昭和16年に開設しました。当時は産婦人科のみで、国泰寺にありました。その後南区へ移ってきました。理念は、「常に誠意と親切心を提供して参る」というものです。

○先生が診察の時に大切にされていることは

言葉だけでなく、必ず体に触れて診察することを心がけています。地域の病院としては、できるだけ患者さんの目線に立って考えることが大切と思っています。

○貴院のPRをお願いします

2年前に16列マルチスライスCTを導入しました。患者様には、できるだけ確実な診断・治療を提供できるように心がけています。その上で、必要があれば確かな専門医の先生にご紹介し、患者様が確実な治療を受けられるよう努めています。

【取材後記】

ジョギングで心身ともにリフレッシュしながら、日々の診療に取り組まれている真田先生。静かで柔らかい語り口の中にも、力強さと責任感があふれるお話でした。

外来診療のご案内

- 診療受付時間 午前8時30分～午前11時00分
※午後の診察は科によって異なります。
- 休診日 土曜日・日曜日・祝祭日
年末年始(12月29日～1月3日)
- 紹介状持参のお願い 初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費のほか2,620円のお支払が必要となります。初診の際には、紹介状をお持ちください。

※当院では、予約診療を優先して診察しています。予約診療以外で受診されると待ち時間が長くなる場合がありますので、ご了承ください。

ご案内

9月のがんサロン

- と き/9月21日(水)
14:00から15:30まで
- ところ/新東棟2階 総合研修室
- 内容/県立広島病院がんサロン(学習会&交流会)
- テーマ/「リンパ浮腫ってなあに」
- 対象/当院に悪性腫瘍(がん)で通院または入院治療中の患者様及びご家族
- 問い合わせ先/県立広島病院 地域連携科
TEL:082-256-3562(直通)

第6回地域健康フォーラム

- と き/10月1日(土)
13:30から15:30まで
- ところ/中央棟2階 講堂
- テーマ/「患者さんにやさしい癌治療」
- 対象/地域住民、医療従事者など
- 問い合わせ先/県立広島病院 地域連携科
TEL:082-254-1818(代表)



もみじ



県立広島病院

〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号
TEL(082)254-1818(代) FAX(082)253-8274
ホームページ http://www.hph.pref.hiroshima.jp/

理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします



この度、広島東ロータリークラブより、プロジェクター1台を寄贈して頂きました。新しく、多機能なプロジェクターは、職員が実施している無料巡回講演で大活躍だと思えます。広島東ロータリークラブの皆様には、深く感謝申し上げます。

(ロータリークラブ(Rotary Club)とは、実業人や専門職業人によって構成された奉仕クラブ組織です。)

地域連携科 看護師長
石津 瑞穂



ワンポイント健康メモ — 食事で夏の疲れを回復! —

今年の夏も猛暑続きでした。睡眠不足や食欲不振になって、体調を崩した方も多いのではないのでしょうか。今回は、食事による疲労回復のポイントを紹介します。

○栄養バランスのよい食事を規則正しく

食事の量や栄養のバランスが乱れると必要な栄養が不足し、疲れやすくなります。三度の食事は時間を決めて、主食、主菜、副菜を揃えるなど栄養のバランスに心がけて食べましょう。



主食:ごはん、パン、麺など穀類が中心の料理

副菜:野菜、きのこ、海藻等の料理と汁物

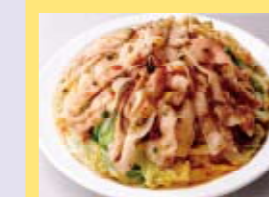
○ビタミンB1とアリシンと一緒に

糖質をエネルギーに変えるのに必要なビタミンB1をとりましょう。豚肉やウナギに多く含まれています。また、にんにく、葱、玉葱、にらなどに含まれるアリシンと一緒にとるとビタミンB1をさらに効果的に利用できます。

○香りや酸味で食欲アップ

生姜やみょうが、しそ、ごまなど香りのある野菜や、梅干しなどの酸味を利かせた料理で食欲を回復させましょう。

簡単メニュー紹介“豚にら蒸し焼き”



テフロンのフライパンや土鍋に、もやし、玉ねぎ、にらを入れ、最後に豚肉を入れて蓋をし、蒸し焼きにします。生姜やにんにく、葱を刻み込んだゴマだれなどでいただきます。少人数なら、今、流行のシリコン容器でも簡単にできます。

【栄養管理科】

診療科だより

第11回

精密かつ
迅速な検査を
実施します。

臨床研究検査科

今回は、臨床研究検査科の西阪主任部長に直撃インタビュー!!

はじめに、「臨床研究検査科」について教えてください。

臨床研究検査科は、365日24時間体制(夜間および日祝は2名)で臨床検査を行う部署です。実際は、生化学・血清検査、血液検査、一般検査を行う検体検査I、輸血検査、細菌検査を行う検体検査II、生理検査、病理検査の4部門からなり、専門の臨床検査技師が精密機器を用いて検査を行っております。



にししか
西阪主任部長

報告の迅速さを心がけています。緊急検査は1時間以内に検査結果を報告し、診察時に結果をお伝えし、迅速かつ的確な治療を受けていただくことができます。また、異常データを発見した場合は、早急な対応ができるように医師へ報告しています。

臨床研究検査科のスタッフを紹介してください。

医師2名、臨床検査技師38名(技師長3名)、医療補助員3名で運営されています。臨床検査は受け持つ範囲は広く、専門的なスタッフにより最新の臨床検査医学に対応しています。医師2名は病理専門医と臨床検査専門医で、専門医が臨床検査全般にたいして管理を行っている数少ない病院の一つです。技師にも専門技師の制度があり、臨床化学、臨床血液、輸血、移植、細菌、細胞診、超音波などで15名の専門資格を有する技師が検査を行っています。

いろいろな検査を行っているのですね、もうちょっと詳しく、教えてください。

輸血検査は、輸血に関わる検査および血液製剤の保存管理を対象とした輸血部の業務や移植に重要なHLA検査を行う中四国臓器移植ネットワークの検査センターの機能を兼ねています。

検体検査では、血液、尿、便、喀痰、髄液、分泌物等のからだのあらゆる部位に存在する体液中の物質の濃度や働きを測定しています。充実した精度管理が行われ、全国の臨床検査値の標準化を行うための基幹病院に指定されています。

生理検査とは、身体の各臓器の機能を調べる検査で、心電図検査・脳波検査・筋電図検査・心音図検査・呼吸機能検査・超音波検査等のように直接患者さん自身の協力のもとに行われる検査です。

病理検査とは、生体から細胞・組織を摘出して、それを顕微鏡下に観察して病理学的に診断する検査で、特にがんの確定診断や手術のあとの治療方針を決めるうえで欠かせない検査です。

臨床検査は日々進歩し、今日では臨床検査なしでは診断や治療はできません。常に最新の技術・機器を取り入れて高度のレベルを保つように心がけています。最近では、病気が遺伝子レベルで解明されつつあるので、遺伝子レベルの解析を病院外の研究機関や検査機関と共同で患者の診断に役立てています。

当院では、検査の結果を電子カルテシステムに自動的に取り込むことにより、患者様の誤認の防止と

西阪先生、最後に患者さんに向けて、一言どうぞ。

臨床研究検査科では、精密な検査と報告の迅速さをモットーにしていますが、患者さんのご注意があって初めて気づくことがあります。臨床検査に関して何か気になることや疑問がございましたら臨床検査技師や病院スタッフに気軽に申し伝え下さい。また、検査結果に対するご説明は技師長を窓口として随時受け付けております。



西阪先生(前列中央)と臨床研究検査科のスタッフ

次回は、心臓血管・呼吸器外科に直撃インタビューします。

新任医師紹介

よろしくお願いします



県立広島病院 眼科
みかじり けんいち
部長 三ヶ尻 健一

趣味:将棋、ボウリング
モットー:患者さんの意思をできるだけ尊重する。

眼循環に興味があり、眼底出血を起こす疾患(糖尿病網膜症や網膜静脈閉塞症など)を主とした診療を行っています。



県立広島病院 循環器内科
おか としはる
副部長 岡 俊治

趣味:スキューバダイビング
モットー:患者さんにあった医療を提供する

虚血性心疾患のカテーテル治療、心臓CT画像診断を専門としています。心臓の血管の動脈硬化に不安のある方は、まずは気軽に受診して下さい。



県立広島病院 眼科
すぎもと ようすけ
副部長 杉本 洋輔

趣味:自転車など
モットー:毎日コツコツ

6年前にも一度県病院でお世話になったことがあります。このたび戻ってきました。なるべく多くの患者様の役に立てよう頑張ります。



県立広島病院 精神神経科
ふるしやう たつや
副部長 古庄 立弥

趣味:庭いじり、子育て
モットー:病ではなく人間を診る

精神疾患全般に診療をしています。目先の状態にとらわれず、3年後・5年後の状態が良くなるように、時には厳しい指導もおこないます。

看護部だより

患者さんの苦痛が、少しでも取り除かれるように、サポートしています。耳鼻咽喉科・頭頸部外科外来

耳鼻科外来は隣接する小児感覚器科と共に、看護師4名で診察介助をさせていただいています。

赤ちゃんからご年配の方まで幅広い年齢層の受診があるなか、患者さんに少しでも苦痛なく診察を受けていただけるようサポートしています。

当院では主に手術が必要となる患者さんが受診されています。中耳炎・アレルギー性鼻炎・副鼻腔炎・扁桃炎・のどの腫瘍やポリープなどで悩まれている方が多く入院されています。

私たちは、患者さんが安心して手術に臨むことができるよう、術前の検査や入院のご案内を行い、また、術後の生活や通院についても相談にのっています。

耳や鼻・のどの症状がすこしでも和らぐようお手伝いしていきます。

